

Contents

2003年4月より日本経済学教育協会はNPO法人に

2003年10月より『EREミクロ・マクロ』を実施

第3回『ERE』の試験結果報告

受験者の声

特別寄稿：教員の立場から見る『ERE』検定試験

事務局からのお知らせ

- ・試験時間・受験料の改定につきまして
- ・2003年度『ERE』『EREミクロ・マクロ』実施要項

▶ 2003年4月より日本経済学教育協会はNPO法人に

日本経済学教育協会は、経済学の基礎知識の取得、実力の養成を目的に、全国の大学の経済学部の諸先生方の協力を得て2001年に設立した団体ですが、2003年1月に内閣府より認証を受け、4月より特定非営利活動法人(NPO法人)として新しくスタートすることとなりました。

これを受け日本経済学教育協会は、今後、EREの試験事業をはじめ、経済学に関する啓蒙とより一層の普及・内外関係との交流に努め、個々の社会教育の推進に寄与していく所存です。なお、NPO法人化にあたっては、会長に西村和雄氏(京都大学経済研究所教授)、副会長に井堀利宏氏(東京大学経済学部教授)、吉野直行氏(慶應義塾大学経済学部教授)、特別顧問に貝塚啓明氏(東京大学名誉教授)、福岡正夫氏(慶應義塾大学名誉教授)、新たに顧問に水口弘一氏(中小企業金融公庫総裁)、永田俊一氏(信託協会副会長)、鶴飼克氏(全国銀行協会副会長専務理事)にご就任いただいております。

現在、日本経済学教育協会は、EREの普及に努めておりますが、各大学等においては「卒業単位の認定テストとして」「ゼミ生の実力テスト(ゼミ対抗のテスト)として」、企業等においては「人事採用時の考課資料として」「新入社員研修の一環として」等、また個人受験者においては「学習の進捗度テストとして」「自己評価基準のテストとして」利用されつつあります。

EREは、「Economics Record Examination：経済学検定試験」の略称です。

▶2003年10月より『E R Eミクロ・マクロ』を実施

現行の『E R E』は、「ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・金融論・国際経済・統計学・時事経済」の7科目により構成され、経済学に関する数理的・理論的な基礎知識等の習得程度と実体経済での応用力のレベル判定を総合的に行うものとなっております。

しかし、上記7科目についての履修をすべて終えていない1・2年(回)生の学部の学生や社会人より、経済学の基礎である「ミクロ経済学・マクロ経済学」のレベル判定を行ってほしいとの要望を受け、2003年10月より、「ミクロ経済学・マクロ経済学」の2科目に限定した『E R Eミクロ・マクロ』を実施することといたしました。レベルの判定方法は、『E R E』同様、偏差値による全国レベルの判定となります。

これにより学部の学生においては、経済学の履修状況また学習の進捗状況等に応じた受験が可能になると同時に、全国レベルでの判定が行われることより、就職活動時の参考資料としても使いやすくなりました。

詳細は本誌8頁、「『E R Eミクロ・マクロ』実施要項」をご参照ください。

▶第3回『E R E』の試験結果報告

2003年3月2日(日)、第3回『E R E』が全国の試験会場において一斉に実施されました。今回は、全国136大学の学生、また金融・証券・生保・商社・官公庁等の社会人の方々より1,189名の応募があり、うち850名の方が受験され(受験率71.5%)成績結果は《資料1》の通りとなりました。

社会人の受験者のなかには、人事部等の採用関係の方もみられ、今後の参考資料とされることがうかがわれました。また、第1回目(第2回目)より今回の第3回まで受験を継続し、自己の目標到達を目指すリピーターも徐々に増えつつあり、本試験の活用が広がりつつあります。

成績の概要は、平均点445.9点、Sランク16名、A⁺ランク46名、Aランク97名、B⁺ランク110名、Bランク238名、Cランク301名、Dランク42名という結果になりました。トップ10には上位より、南山大学、慶應義塾大学、公正取引委員会、ゼロワン公務員ゼミナール、早稲田大学、東京工業大学、中央青山監査法人、一橋大学大学院、東北大学、同志社大学大学院の方々が優秀な成績を修めました(《資料3》参照)。

《資料1》成績概要

	第3回	第2回	第1回
応募者数	1,189名	1,087名	1,230名
受験者数	850名	793名	1,012名
平均点	445.9点	420.3点	463.7点
分散	13355.09	14397.55	14060.80
標準偏差	115.56点	119.99点	118.58点
最高得点	820点	790点	860点
最低得点	30点	70点	150点

《資料2》科目別成績

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学	財政学	金融論	国際経済	統計学	時事経済
配点	250点	250点	100点	100点	100点	100点	100点
平均点	122.7点	105.2点	52.1点	44.9点	34.8点	33.5点	52.8点
(前回)	105.3点	119.9点	53.9点	51.1点	28.5点	25.2点	44.2点
分散	1618.78	1487.31	455.16	369.54	281.20	266.94	406.43
標準偏差	40.23点	38.57点	21.33点	19.22点	16.77点	16.34点	20.16点
(前回)	39.57点	36.17点	20.41点	20.33点	19.95点	17.12点	17.60点

《資料3》上位20名

順位	大学・勤務先名	所属	氏名(敬称略)	得点	ランク
1	南山大学	経済学部	鈴木雅貴	820	S
2	慶應義塾大学	経済学部	田中 誓	760	S
2	公正取引委員会	経済調査課	深町正徳	760	S
4	ゼロワン公務員ゼミナール	長崎校	三宅英雄	750	S
5	早稲田大学	政治経済学部	堀口岳史	740	S
5	東京工業大学	工学部	川田亮平	740	S
5	中央青山監査法人	大阪事務所監査一部	川合 力	740	S
8	一橋大学大学院	経済学研究科	井上綾子	730	S
8	早稲田大学	政治経済学部	山根洋平	730	S
10	東北大学	経済学部	萩原泰斗	720	S
10	慶應義塾大学	経済学部	内山明夫	720	S
10	同志社大学大学院	総合政策科学研究科	松岡孝英	720	S
13	衆議院事務局		外山大蔵	710	S
13	横浜国立大学	経済学部	桜井洋人	710	S
13	学習院大学	経済学部	古川 一	710	S
13	京都大学	農学部	非公開	710	S
17	慶應義塾大学	経済学部	熊崎貴之	700	A ⁺
17	大分県庁	企画文化部統計調査課	井上 淳	700	A ⁺
19	慶應義塾大学	経済学部	松田泰幸	690	A ⁺
19	東京大学	工学部	小林弘幸	690	A ⁺
19	慶應義塾大学	経済学部	佐藤雅之	690	A ⁺
19			日笠 鉦	690	A ⁺
19	文部科学省	研究復興局	朝倉徳浩	690	A ⁺
19	立命館大学	経済学部	非公開	690	A ⁺
19	信託銀行	資産管理部	金安晃裕	690	A ⁺
19	名古屋市役所	情報化推進課	鈴木武郎	690	A ⁺
19			松岡 功	690	A ⁺
28	京都大学	工学研究科	松室徹哉	680	A ⁺
28	京都大学大学院	経済学研究科	非公開	680	A ⁺
28	広島大学	社会科学研究科	坂口 学	680	A ⁺
28			原田文教	680	A ⁺

《資料4》10名以上の応募があった大学

大学名	人数	大学名	人数
立命館大学	50名	13 関西大学	17名
明治大学	34名	14 福島大学	15名
慶應義塾大学	33名	15 東北学院大学	13名
早稲田大学	30名	15 埼玉大学	13名
東京大学	29名	15 高崎経済大学	13名
新潟大学	25名	18 静岡大学	11名
中央大学	24名	19 神戸大学	11名
近畿大学	20名	19 専修大学	10名
長崎大学	20名	19 日本大学	10名
法政大学	19名	19 大阪経済大学	10名
11 京都大学	18名	19 広島修道大学	10名
11 同志社大学	18名	19 熊本学園大学	10名

▶ 受験者の声

南山大学経済学部 鈴木 雅貴（すずき まさたか）さん / 820点（Sランク）

受験回数 1回（第3回目）

対策 特になし。しかし、『E R E問題解説集』に一通り目を通しました。

感想 科目によって、かなり難易度が異なっているので、もう少し一貫性をもたせていただきたいと思います。

現在お持ちの資格 C F P 1級ファイナンシャル・プランニング技能士

判定について 客観的な意見として、偏差値による相対判定のほうが、得点による絶対判定よりも判定基準に一貫性は保てると思います。

また次回（第4回）より、試験時間に変更があるとのことなので、過去実施の判定との整合性を保つ意味でも、現在の偏差値基準を続けていただきたいと思います。

E R Eに対する期待について N P O法人化に伴い、ぜひともE R E試験の認知度向上に努めていただきたいと思います。

*

*

*

信託銀行資産管理部 金安 晃弘（かなやす あきひろ）さん / 690点（A+ランク）

受験回数 2回（第1回目、第3回目）

対策 過去問題の解答作成・分析（過去問題集の利用等） 標準的な教科書の参照（西村和雄著『入門経済学ゼミナール』） 公務員試験参考書の通読（原田 泰著『経済学スーパー解法テクニク（公務員基本書シリーズ）』） 日経新聞の日頃からの精読

現在お持ちの資格 日本証券アナリスト協会検定会員 宅地建物取引主任者 日本商工会議所「簿記検定2級」 英検1級 T O E I C 870点 日本証券業協会特別会員内部管理責任者 銀行業務検定協会「信託実務3級」 ロンドン大学理学修士学位（MSc in Financial Management）

判定について 受験者全体における自分の成績・位置付けが明確になり、大変よいと思います。私の場合、第3回の成績が絶対水準のみならず相対評価においても、当初の目

標としていたレベルを上回る成績となり、大いに励みになりました。

『E R Eマイクロ・マクロ』の実施について 「経済学検定試験」と銘打つからには、理論面での理解度のチェックに重きをおくべきであり、かかる観点からマイクロ・マクロ経済学のみを出題範囲とする試験を設定することは、特に学生諸君にとっては大いに意味があります。第3回の試験結果は「時事経済」や「金融論」で点数を稼いだので、次回受験する機会には、マイクロ・マクロ経済学の基礎理論をさらに深く学習する必要がありますと思っています。

E R Eに対する期待について 今後の普及・発展を期待したいです。現役学生にとっては、経済理論面での理解度チェック、公務員試験準備等への利用ができるし、社会人にとっては知識のブラッシュ・アップ、現実経済・金融理論面での理解・知識整理に大いに役立つことと思います。受験準備を通じて、学生時代（20年以上前であるが）に習得した理論を、日常業務における経験・断片的な知識とあわせて、頭の中で整理・再構築する機会が得られ、感謝しています。

*

*

*

国立大学 女性（Bランク）

受験回数 3回（第1回目、第2回目、第3回目）

対策 第1回、第2回は大学で使用していた『基礎からステップ経済学』を読みました。

第3回から本格的に勉強して臨もうと思い『E R E問題解説集』を読みました。

感想 第1回、第2回を受験したときは、初学者（ほとんど何も対策せず）だったので、あまりの難しさに「二度と受けない」、と思いましたが、第3回を受ける前に『E R E問題解説集』を読んだときは、この私でも解ける問題があることに気づきました。しかし、第3回はこれまでで一番難しかったです。ほとんどの問題がそうでした。せめて、マイクロ・マクロ経済学はもう少し基本的な問題にしてください。また、「統計学」はなにを勉強したらよいのか、わかりません。計量経済学のテキストに載っているものより高度な内容ではないかと思いました。とにかく、科目数、出題数とも多すぎると感じました。

現在お持ちの資格 実用英語技能検定 日本漢字能力検定 珠算検定

判定について 自分の能力は第1回るときから変わっていないと思うのですが、第3回のランクがこれまでより上がったので、頑張ってよかったと思いました。いつも同じレベルの問題が出題されるとは限らないので「偏差値によるランク判定」のほうが受験者のなかでの自分の位置を把握でき、今後もこの方法を採用してほしいです。

『E R Eマイクロ・マクロ』の実施について 『E R E』は初学者にとって、出題科目7科目すべてをある程度まで勉強してから望むのは大変なので、マイクロ・マクロ経済学に限定した『E R Eマイクロ・マクロ』は受け入れられると思います。私もマイクロ・マクロ経済学だけなら、じっくりと勉強をしてから受験できると思うので望ましいと思います。

E R Eに対する期待について まだ、私自身が初学者なので試験の普及についていえることはありませんが、就職の際に必ず有利な資格であると確信しているため、民間企業だけではなく、官公庁採用試験でももっと注目してもらえるように、この試験の魅力を広めてほしいと思います。

特別寄稿

教員の立場から見る『E R E』検定試験

桃山学院大学での対応

われわれの経済学部では、E R E実施要領が公表されると同時に対策講座の設置が提案され、2002年度には通年週1コマの経済学特講（E R E対策講座）というかたちで、2名の経済学部教員が半年ずつ、ミクロ・マクロ分野を中心に講義を行いました。集まった学生は40名弱でしたが、少人数で稠密な演習形式の講義ができたと思っています。受講生の大半は1、2回生でしたので、もう少し鍛えて、数年後には、相応の成果をめざしたいと考えています。

ちなみに、私は学部の教務委員をつとめている関係で、ここ数年、教育後援会の集まりに出席しているのですが、昨年は、父兄のあいだからもE R Eに関する質問を受けました。経済学の学習努力が得点化されるE R Eは、めだつた資格や免許に直結しない経済学部教育のなかでは、画期的な試みとして注目されているようにも感じます。

E R Eのメリット

この統一試験には、現場の教員から見ても、いろんなメリットがありそうです。

まず、明確な目的が与えられるので、経済学の勉学に弾みがつく効果です。

もとより、こうした得点化は、体系化された標準が存在する経済学でこそ可能なことであろうと思いますが、同時に、体系化されている分だけ経済学の学習は困難で、とくに経済理論の学習は、ある程度のレベルに達するまでは、多少の苦痛を伴います。この苦痛を緩和するために、たとえば「百の小言より一つの道具」といった調子で授業の「I T化」が熱心に提唱されてきましたし、その重要性は今後も減じることはないと思います。

しかし、今年度E R E対策講座を担当してよかったと思えるのは、むしろ「百の小言より具体的な一つの目標」、目標が定めれば、抽象的な理論の問題演習の繰り返しも苦にならない、そういう熱心な学生たちの受講態度に触れえたことです。E R Eの出題範囲は公務員試験と重複する部分もありますから、この面でもインセンティブを高めやすくなっています。

しかし、これはなにも、実務教育への傾倒を意味するものではありません。たとえば公務員試験のためにミクロやマクロの勉強をはじめたところ、経済学の面白さに魅せられてしまったという事例をとときき聞きます。そもそも経済問題を考えるためには、経済理論の知識は必須でしょう。我々の対策講座の内容は、考える道具としての基礎理論を身につけるための抽象的な問題の反復演習という風に考えていますし、単に問題解法を覚えるだけのハウツー講座ではE R Eでの高得点は望めないだろうとも考えています。

さらに、われわれの経済学部の場合、こうした得点化によって、優秀な学生が世間の月並みの評価に埋もれてしまわなくともよくなる、あるいは、一流ブランド大学を出し抜ける可能性など、そういうことも期待しうるのではないかと秘かに思っています。

今後のE R Eに望むこと

最後に、E R Eの具体的な中身に関するのですが、身近な同僚との会話では、一般的に難しいという評価をよく聞きます。しかし、勉学の筋道が明示されているならば、難しくとも構わないと思います。むしろ、山は高い方がよいかもしれません。この点、定番教科書が限定できるミクロ・マクロはやりやすく、逆に、統計分野の平均点が最も低いのは、このあたりにも一因があるのかもしれません。

また、全科目を網羅的に学習するのは大変で、科目の多さが1，2回生の受験率を下げているようにも思えます。経済学部生は全員が、「体系」にしたがって、まずミクロ・マクロを学ぶわけですから、ミクロ・マクロだけの合計点での評価やランキング、さらに、科目ごとの評価・集計があってもよいのではないかと考えます。

今後は、企業の人事採用部局での評価が高まることと、それから、可能ならば、E R Eへの取り組みをできるだけ多くの同僚と共有できるような方向への拡充（他の学科目の追加など）を望みます。

（2003年2月1日，桃山学院大学経済学部助教授 荒木英一）

▶ 事務局からのお知らせ

試験時間・受験料の改定につきまして

現行の『E R E』につきましては、皆様方のご要望にお応えして、本年10月実施の第4回『E R E』より午後の時間帯で、試験時間を30分延長して180分に変更いたします。

また、社会教育の充実化を一層推進するため、受験料を5,000円に改定させていただきます。

2003年度『E R E』『E R Eマイクロ・マクロ』実施要項

2003年度(第4回・第5回)の『E R E』『E R Eマイクロ・マクロ』の実施および内容等の概要は、下記のとおりです。詳しくは検定試験運営センターにお問合せください(: 03 - 3267 - 4821)。

ホームページ【<http://www.ere.or.jp/>】

e mail【info@ere.or.jp】

『E R E』実施要項

実施回	第4回	第5回
試験日	2003年10月26日(日)	2004年3月7日(日)
試験時間	午後1時30分～午後4時30分	午後1時30分～午後4時30分
受験願書 受付期間	2003年7月1日(火)～ 2003年9月1日(月)消印有効	2003年11月1日(土)～ 2004年1月15日(木)消印有効
受験料	5,000円(非課税)	
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学/財政学/金融論/国際経済/統計学/時事経済	
出題形式	4択一式/100問, 1問10点, 1,000点満点	
持込品	受験票, 筆記用具(HBの鉛筆, プラスチック製消しゴム), 電卓(ただし, ポケコン, 関数・メモ機能付は不可), 顔写真付身分証明書(学生証・運転免許証・パスポート等)	

『E R Eマイクロ・マクロ』実施要項

実施回	第4回	第5回
試験日	2003年10月26日(日)	2004年3月7日(日)
試験時間	午後1時30分～午後3時00分	午後1時30分～午後3時00分
受験願書 受付期間	2003年7月1日(火)～ 2003年9月1日(月)消印有効	2003年11月1日(土)～ 2004年1月15日(木)消印有効
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学	
受験料	3,000円(非課税)	
出題形式	4択一式/50問, 1問10点, 500点満点	
持込品	受験票, 筆記用具(HBの鉛筆, プラスチック製消しゴム), 電卓(ただし, ポケコン, 関数・メモ機能付は不可), 顔写真付身分証明書(学生証・運転免許証・パスポート等)	

(注) 『E R E』のミクロ経済学・マクロ経済学と同一問題です。